

- 実施主体 (有) 熊本植物研究所
- 実施場所 阿蘇郡小国町黒淵
- 実施期間 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月



◇背景・ねらい

本事業では、次の 3 点を活動目標とする。

1. 小国町犬防田地区の放牧地は、昭和 40 年代に草地改良された後、30 年以上にわたって管理放棄されて樹林化（樹高 5～8 m）が進行していた。一方で本域には湿生草地があり複数の希少植物が生育している。本事業では、湿生草原を含む二次草原の再生保全を図るとともに、本地域に生育する希少種の保護・増殖に取り組む。
2. 環境省は平成 21 年度から絶滅危惧種の種子収集・保存事業を開始しているが、阿蘇地域全域においても未利用野草地や放棄草地の増加等に伴い、多くの種で希少化傾向の急激な進行がおきており対応が急務となっている。そのため本事業では、再生草原を利用して、それらの種についても保全の取り組み（生育地外保全）を行うとともに、保護・増殖技術の確立を目指す。
3. 施設を公開し、地域に根ざした生物多様性保全の学習施設として機能させる。

◆実施概要

1. 事業実施域の草刈実施（全域 3～5 回／年）
2. 木本類伐採
 - ・域内の木本類（低木～高木）のうち、不要と判断した個体は除伐した（20 本程度）
3. 1, 2 により発生した刈草、伐採木の焼却処理
4. 秋期の草刈、焼却
 - ・10 月以降、小面積に分割しながら全域の草を刈り取り、焼却処理した。
 - ・これにより、3 月の野焼き面積は事業域の 1 割程度になった。
5. 観察路、維持管理道、水路の整備
6. 実生苗の生産、育苗
 - ・サギソウ、オグラセンノウ、イヌハギなど 15 種程を生産。
7. カキツバタ、オケラ、ベニバナヤマシャクヤク、レンゲツツジなど 11 種の植栽



植栽用池の造成



湿生植物栽培圃場

◆実施体制

熊本植物研究所単独で実施した。

◆成 果

これまでにアソサイシン、ジュンサイ、ロッククイ、ミツガシワ、ツチグリ、ヒメミクリなど保護上重要な 55 種を植栽、または圃場にて栽培中。もともと生育していたヒメカンガレイ、サツママアザミなど 11 種の重要種についても生育量の減少が起きないように保全管理を行っている。



秋期の刈草焼却作業

◆実施者の感想

植栽個体の中には枯死する個体が目立つ種とほとんど枯死しない種など生存率に差がある。苗生産も年や用土の種類によって差が生じる。今後、これらのデータをできるだけ多く集め、効率的な保護・増殖に役立てたい。また、現段階ではそれぞれの種の個体数は少ないので、今後、少しずつ増やしていきたい。



実生苗生産状況